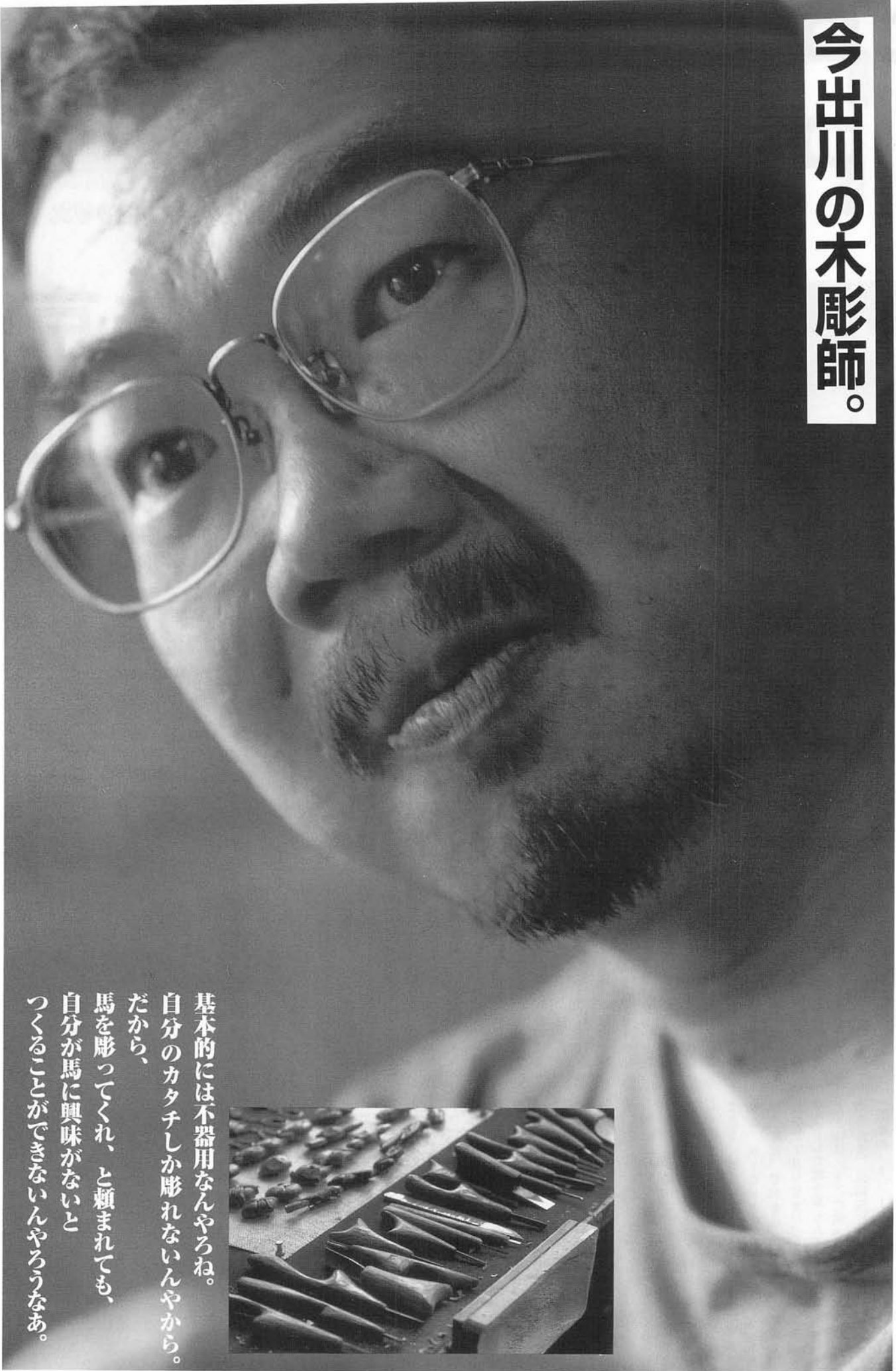


今出川の木彫師。



基本的には不器用なんやろね。
自分のカタチしか彫れないんやから。
だから、
馬を彫ってくれ、と頼まれても、
自分が馬に興味がないと
つくることできないんやろうなあ。

小さいころから木彫に興味があった、といわけでもない。はじめはコマージュ写真写真をやるかと思っていたくらいだ。それが、学生時代に北海道でアルバイトをしたことから変わった。

それは、民芸品を売るアルバイトだった。最初は観光客に木彫品を売るのが面白かった。そのうち、自分の人生を賭けて木彫りをやっていた人たちに接して、自分も...と考えるようになった。めぐりあったのは、岩間次雄氏。北海道知事賞を受賞したこともある、かの地では有名な作家だった。

岩間氏は、最初に「こ云った。
「アクセサリーなんかの量産品をマネするのではなくて、はじめのうちは自分の好きなもの、彫りたいものをつくればいい。まずは自分

の作品を実際につくってゆく中で、木彫のセオリーをおぼえればい

それから大学も途中でやめて、北海道に逗留する日々が続いた。観光客相手のアルバイトをしながら、自分で彫りたいと思うものをつくる日々が、しばらくはつづいた。身の回りには木彫師の手先をじっとみつめては、おなじことを真似してみる。そうして、彫刻刀の使い方もおぼえていった。

やがて、作品らしきものがいくつかできあがるようになった。だが、自分のイメージを彫刻刀に伝えたいとは、とても云えない出来栄であった。どうすればいいのだろうか？ふたたび岩間氏を訪れた。氏は、
「じゃあ、一緒にそれをつくってみようか」といった。ふたり並んで座って、木肌に刃を

きざんでゆく。おなじものをくりながら、できあがったものをふたつならべたとき、それはまったく別の表情と質感をそなえていた。同時に、わからなかったことはすべて氷解していた。

それから、岩間氏は彼に手とり足とり教えてくれるようになった。そのときから、テーマは鼻だった。理由はわからない。どういふものか鼻が好きなのだ。売り物として本格的に鼻をつくりだしたのは五年前だ。けれど、木彫りをはじめたときから、すでにこれだと決めていた。

現在のこの店をはじめてから、もう二〇年がすぎている。店の前を市電が通っていたのは、懐かしい思い出。一部、岩間氏の作品もあるが、ほとんどは自分のオリジナルだ。べ

ングラントや小物、いろいろあるが、やはり鼻をモチーフにしたものが多い。その中でも、ちょっと目を惹くのは、大理石のような光沢と質感をもつ「埋もれ木」や、「瘤」でつくった作品だ。

瘤は文字通り木の瘤を利用したものである。複雑なマーブル模様なんともいえない。そして埋もれ木とは、何百年と沼地に眠っていた木が、掘り起こされ、目醒めたものをいう。どちらも、仕入れた直後のモノは、別段、どういふこともない形状をしている。端的にいえば、道に落ちていても拾う気さえない。夕々の板切れた。

しかし、それを泥水に二か月ほど漬けてこみ、ワックスで丁寧に磨きこんでゆく。すると、えもいわれぬ美しさが現れてくる。

この埋もれ木を、泥水にも漬けず、あまり磨き込まないようにしてつくった作品もある。これはこれで、素朴な木の質感が現れて、またいいものだ。

アンティークショップなどにゆくと、なんとかわびた、時代のついた木肌の木彫品をみることもある。あまり磨きをかけていない埋もれ木の作品には、昨日つくったばかりのものに、それと同じ気配がただよう。

「基本的には不器用なんやろね。自分のカタチしか彫れないんやから。だから、馬を彫ってこれ、頼まれても、自分が馬に興味がないとつくることできないんやろなあ。それに、頼んでくれた人に気に入ってもらえるかどうか、すくなく悩んでしまうしねえ。そやから、店に無いもの、僕の彫り方にな

木彫りアクセサリーのほり店主 (TAKAYUKI NAKATANI)

中谷貴幸

PROFILE

兵庫県姫路市出身。昭和二十七年一〇月生まれ。地元高等学校を卒業後、大阪浪速短期大学に入学。コマージュ写真作家を目指す。北海道で経験したアルバイトがきっかけで木彫師の道に入る。約二〇年前から京都府左京区浄土寺西田町で「木彫アクセサリーほり」を開業。現在に到る。木彫品の主な販路は大手百貨店の催事が中心。その作品を受賞するファンも多い。なお、北海道では有名な創作民芸作家・岩間次雄氏は、中谷氏の師匠であり、友人でもある。



いものは、頼まれても断ることにしている。むかしは、いろいろ頼まれて四苦八苦してたけれどねえ。

今は、店にあるもののパリエーションを変えらるくらいかなあ。ペンダントで売ってるものを、イヤリングにしてくれとか。それくらいの注文はいつでも受けてくれるけれどね。

この前、飼っている犬が死んでしまったから、その犬をつくってほしい、という人がいてねえ。最初は断っていたんだけど、どうしてもの、というわけ。むかしからの付き合いをしてる人なもので、断りきれなくなってきた。半年以上もかかったね。それをつくるのに、写真とかビデオとかたくさん資料も送ってくれてね。でも、大変だったよ。どうにか完成して、飼い主もすくよくよ喜んでくれたけれど...もう、あ

今出川通りに面した、このちいさな店をみつけたのは、それほど前のことではない。どちらかといえば自立たない、古ぼけた風情の店内は六畳間くらいの広さしかない。軒上にはちやんと店名もかけられているが、この前を通る何人の人がその名を認識していることだろう。

その店の中で、いつ訪れても同じ格好、同じ姿勢でつくねんと鼻のペンダントや小物を彫りつつけている店主。

置かれているものは、やたらと鼻をかたどったものが多い。特にリアルでもなく、派手な色調をもつでもなく、とぼけた表情の素朴な味わいをもつものばかりだ。

しかし、じっとみているとほしくなるのである。ああ、あの櫛の文机の上に置いてみたいなあ、と思わせるのだ。そして、これをつくっている店主はどんな人なのだろうと興味がい

てくるのである。

そんなわけで、今回、店主と話し合う機会を得た。そして、取材の余禄にたいへんオイシイ？情報を得ることもできた。それは、本来、お馴染みさんにならないとわからないコトである。趣味のあう人なら飛びつくことうけあいだ。だが...ここで紙幅が尽きた。残念だが、教えることができない。

文／三村 溪
写真／小笠原 圭彦

あつとおどろく旅はやっぱりHIS

●ロサンゼルス 69,000円	●ローマ 86,000円
●サンフランシスコ 68,000円	●ナイロビ 158,000円
●オーランド 83,000円	●カイロ 99,000円
●ニューヨーク 82,000円	●イスタンブール 89,000円
●リオデジャネイロ 156,000円	●バンコク 57,000円
●メキシコ 84,000円	●ホンコン 64,000円
●ホノルル 64,000円	●デンパサル 58,000円
●世界一周 94,000円	●ベトナム 75,000円
●バンクーバー 71,000円	●ランカウイ 68,000円
●デリー 108,000円	●シドニー 69,000円
●カトマンズ 107,000円	●ブリスベン 99,000円
●ロンドン 87,000円	●パース 97,000円

*10月関西発

H.I.S. 河原町通 河原町通 河原町通

株式会社 エイチ・アイ・エス
京都営業所 運輸大臣登録一般旅行業第724号
〒604京都市中京区河原町通蛸薬師上ル
奈良屋町293清水屋ビル6F

ツアーなら075(256)5691
格安航空券なら075(241)2528